

日中韓の伝統人形劇 初競演

3人遣い(日)、糸操り(中)、足遣い(韓) …技法は様々

韓国から「パルタル」初来日



「東アジア文化都市2014横浜」の一環として、日本・中国・韓国、それぞれの国の無形文化財に指定されている伝統人形劇を初めて一堂に集めた公演「三国三様 日中韓の伝統人形劇」が、**10月25日(土)、横浜にぎわい座で開催されます。8月9日(土)の一般発売にあわせ横浜市民の皆様を無料招待します!**

日本からは、語りと三味線に合わせ、3人が一体になって人形を操るユネスコ無形文化遺産指定の「人形浄瑠璃 文楽」。

中国からは、「伝統芸能の宝庫」である福建省で受け継がれて来た高度なテクニックを誇る「糸操り」。

韓国からは、足に仮面を付け、生きているかのように見せる「パルタル」が、初来日します。

三者三様の伝統技法の人形劇を連続して上演する貴重な公演です。公演に先立ち、文楽発祥の地・大阪ならではの名作「寝床」を上方落語界の重鎮・笑福亭松枝が、たっぷり聴かせます。

1 公演概要

(1) 公演名

東アジア文化都市2014横浜「三国三様 日中韓の伝統人形劇」

(2) 日時

平成26年10月25日(土)

①開場13:00 開演13:30 ②開場16:30 開演17:00

(3) 会場

横浜にぎわい座 芸能ホール (Tel 045-231-2515)

(4) プログラム 概要

落語: 「寝床」笑福亭松枝

文楽: 「傾城阿波の鳴門～巡礼歌の段」竹本千歳大夫、竹澤宗助、吉田勘彌ほか

糸操り: 「嘉礼献瑞」「闇之宵」泉州市木偶劇団

パルタル: 「ポンポンソリ」「ジャンタリョン」「ユックチャベギ」パルタル伝統劇保存会

(5) 主催: 2014年東アジア文化都市実行委員会

企画・制作: 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 (総合プロデューサー: 中村雅之)

(6) チケット一般発売

ア. チケット取扱い

横浜能楽堂: 平成26年8月9日(土) 正午より

横浜にぎわい座・チケットぴあ、ローソンチケット: 平成26年8月10日(日) 朝10時より

イ. 料金 3,000円 (全席指定)



韓国「パルタル」

2 横浜市民を無料ご招待します！！（各公演 10 組 20 名様）

(1) 応募方法

以下の「必要記入事項」を記載し、下記応募先までハガキまたは FAX で送付してください。

(2) 対象者

市内在住の方

(3) 必要記入事項

氏名（ふりがな）、郵便番号、住所、電話番号、観覧を希望する時間（①13:30 ②17:00）

(4) 応募先

2014 年東アジア文化都市実行委員会事務局 「日中韓の伝統人形劇」市民招待係

FAX 050 - 3730 - 7090

〒141-8657 東京都品川区上大崎 2-14-9 アイケイビル 3F（JTB コミュニケーションズ内）

(5) 応募締切

平成 26 年 9 月 7 日（日）当日消印有効

(6) その他

ア．応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

イ．当選者の発表はハガキによる通知をもって代えさせていただきます。

ウ．氏名・住所などの提供いただいた個人情報については、抽選結果通知の発送のためのみ使用させていただきます。これ以外の目的には、一切使用いたしません。

※詳細は添付資料をご覧ください

お問合せ先

横浜にぎわい座担当 堀利文・^{かいとみほ}堀内美穂 Tel 045-231-2525

文化観光局創造都市推進課担当課長 大蔭直子 Tel 045-671-2277

◇◇ 公 演 概 要 ◇◇

■公演名／東アジア文化都市 2014 横浜「三国三様 日中韓の伝統人形劇」

■日時／ 2014 年 10 月 25 日（土）

①開場 13：00 開演 13：30 ②開場 16：30 開演 17：00

■会場／横浜にぎわい座 芸能ホール

■入場料／3,000 円（全席指定）

■チケット／

[横浜にぎわい座・各種プレイガイド] 平成26年8月10日（日）朝10時より
[横浜能楽堂] 平成26年8月9日（土）正午より ※発売初日は電話のみ

■お申込み／

横浜にぎわい座（窓口・電話）TEL 045-231-2515 [受付時間 10時～21時]

横浜能楽堂（窓口・電話）TEL 045-263-3055 [受付時間 9時～20時]

チケットぴあ TEL 0570-02-9999 (Pコード：438-977) <http://t.pia.jp/>

ローソンチケット TEL 0570-084-003 (Lコード：39284)

TEL 0570-000-407 (オペレータ対応) <http://l-tike.com/>

■主催／2014 年東アジア文化都市実行委員会

■企画・制作／公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団

平成 26 年度 文化庁 地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ



■総合プロデューサー／中村雅之（横浜能楽堂）

アシスタントプロデューサー／堀内美穂（横浜にぎわい座）



ユネスコ無形文化遺産の「文楽」

（日本）



海のシルクロードの港町から「糸操り」

（中国）



日本初公開！幻の放浪芸「パルタル」

（韓国）

◇◇ プログラム ◇◇

解説 細井尚子（立教大学教授）
中村雅之（横浜能楽堂館長、明治大学大学院兼任講師）

落語 「寝床」 笑福亭松枝

文楽 「傾城阿波の鳴門～巡礼歌の段」
浄瑠璃：竹本千歳大夫
三味線：竹澤宗助
人形（女房お弓）：吉田勘彌、吉田玉佳、吉田簀次
（娘おつる）：桐竹勘次郎、吉田玉誉、吉田簀之

〈休憩〉

パルタル 「ポンポンソリ」「ジャンタリョン」「ユックチャベギ」
パルタル伝統劇保存会
才談・パルタル：曹英淑、金光熙
アナッソネ・才談：韓惠善
ピリ：趙美賢
アジェン：李寛雄
デグム：李星儁
ジャング：韓性洙

糸操り 「嘉礼献瑞」「闇之宵」
泉州市木偶劇団
団長・芸術監督：王景賢
演員：陈应鸿、陈学群、张弓、许少伟、孟素萍
林晓军、庄文铁、吴晓晖、邱志勇
演奏員：陈志杰、林建裕、黄达生、许子铭、黄贞龙、曾凯瑜、吴季莲

◇◇ プロフィール ◇◇

出演者

笑福亭松枝（しょうふくてい・しょうし）

1950（昭和 25）年生まれ。1969（昭和 44）年、高校を卒業すると迷わず落語家を目指し 6 代目笑福亭松鶴に入門。翌年、大阪・角座で初舞台を踏む。荒削りな芸風の松鶴門下にあって理知的は語り口をするのが特徴。1999（平成 11）年には、文化庁芸術祭演芸部門優秀賞を受賞。著書に『ためいき坂くちぶえ坂』『松枝の世相落し噺 100』（図書出版・浪速社）、『当世落語家事情』（弘文出版）がある。

竹本千歳大夫（たけもと・ちとせだゆう）

1959（昭和 34）年生まれ。1978（昭和 53）年、4 代目竹本越路大夫に入門。翌年、竹本千歳大夫を名乗り、朝日座で初舞台。2005（平成 17）年、8 代目豊竹嶋大夫門下となる。「情」のある語り口で高い評価を得る。度々、文楽協会賞・因協会奨励賞を受賞しているほか、2000（平成 12）年には芸術選奨文部大臣新人賞、2009（平成 21）年には松尾芸能賞優秀賞を受賞する。文化庁文化交流使としてチェコなどを訪問。

竹澤宗助（たけざわ・そうすけ）

1960（昭和 35）年生まれ。1978（昭和 53）年、国立劇場文楽第 5 期生となる。1980（昭和 55）年、竹澤団六に入門し、竹澤団治を名乗る。同年、朝日座で初舞台を踏む。1995（平成 7）年、竹澤宗助に改名。度々、文楽協会賞・因協会奨励賞を受賞している。

吉田勘彌（よしだ・かんや）

1955（昭和 30）年生まれ。1974（昭和 49）年、国立文楽劇場第 2 期研修生となる。1976（昭和 51）年、2 代目桐竹勘十郎に入門し、桐竹勘弥を名乗り、朝日座で初舞台を踏む。1986（昭和 61）年、3 代目吉田襄助門下となり、吉田姓に代わる。1999（平成 11）年、因協会奨励賞、2006（平成 18）年、国立劇場文楽賞文楽奨励賞を受賞。

パルタル伝統劇保存会

パルタルは、黒幕の間から「タル」（仮面）を付けた「パル」（足）を出し、幕の外に立つ役者と掛け合いで、歌い・踊り・演じる芸能。舞台袖では、ピリ、デグム、ヘグム、ブック、ジャングなどが伴奏する。物語には、朝鮮王朝時代の庶民から見た、鋭い社会批判と観察眼が見られる。旅芸人の集団である「男舎堂（ナムサダン）」によって受け継がれた。国の重要無形文化財第 79 号に指定されており、その保存団体が、パルタル伝統劇保存会だ。会長の曹英淑（チョ・ヨンスック）は、1934 年生まれ。名優として知られた李東安の一番弟子として修業し、パルタルを今日まで守って来た貴重な存在だ。

泉州市木偶劇団

1952 年に設立された泉州市木偶劇団は、現在に至るまで伝統演目の保存・継承と新作演目の創作、新演出・新しい舞台構造の創出など、中国の糸操り人形劇に多大な貢献をしている。国内のみならず、五大陸 50 か国以上での上演実績があり、国内外の芸術賞の受賞も数十に及ぶ。国連が採択した「無形文化遺産の保護に関する条約」に基づく「中国民俗民間文化保護プロジェクト」の優秀実践リストに 2012 年 12 月加えられた。

解説

細井尚子（ほそい・なおこ）

早稲田大学大学院博士課程単位取得中退。博士（文学）。専門は演劇学。学位論文は「中国四川・福建の表演」。早稲田大学演劇博物館助手、立教大学社会学部助教授・教授を経て、現在は立教大学異文化コミュニケーション学部教授。福建省では泉州の木偶戯（糸操り人形劇）・梨園戯・打城戯を中心対象とし、特に戯神相公爺に魅せられる。

中村雅之（なかむら・まさゆき）

法政大学大学院修士課程修了。横浜能楽堂館長。明治大学大学院兼任講師、東京芸術文化評議会専門委員などを兼任。能・琉球芸能・文楽など伝統芸能のプロデュースを幅広く手掛ける。中国・韓国・タイ・ベトナム・インドネシアの伝統芸能とのコレボレーションにも成果を上げている。著書に「英訳付き 一冊でわかる日本の古典芸能」など。

◇◇ 演目解説 ◇◇

落語「寝床」

上方落語の名作として知られるが、明治以降、東京でも演じられるようになり、8代目桂文楽、5代目古今亭志ん生ら名人たちが取り上げ、人気演目の一つとなった。大阪で、かつてはいかに文楽が、生活の中に浸透していたかが伺える。この落語が人気を得ることにより、「寝床」という言葉は、旦那芸の代名詞ともなった。

〈あらすじ〉義太夫好きの主人は、自分が上手いと思い込み、大勢の人に語って聞かせようと思い立つ。肩衣や見台をあつらえ、酒や菓子まで用意した上で、番頭に店の者や長屋の住人達を呼び集めるように命じる。主人の命に、仕方なく回るが、主人の下手さ加減を知っているの、あれこれ理由をつけて誰一人として来ようとはしない。これを聞いて腹を立てた主人は、店の者には暇を出し、長屋の住人達は押し出すと言い出したので、しぶしぶ集まり、義太夫が始まる。さて、この結末は…。

文楽「傾城阿波の鳴門～巡礼歌の段」

江戸後期に、大阪・竹本座で初演されて以来、文楽の代表作として繰り返し上演されているが、ほとんどが八段目である「十郎兵衛住家の段」のみ。特に、この段の前半は「巡礼歌の段」として独立して演じられる場合も多い。巡礼となった娘・おつるが発する「父（とと）さんの名は阿波の十郎兵衛（じゅうろべえ）、母（かか）さんの名はお弓（ゆみ）と申します」という名セリフは、哀れを誘う。

〈あらすじ〉失態により徳島の城主・玉木家を追われた十郎兵衛は、家老から盗まれた家宝の名刀「国次」を密かに探し出すよう命じられる。帰参を望む十郎兵衛は、娘・おつるを残し大阪へ向う。時がたち、刀を探し出すために、銀次郎と名を変え盗賊の仲間入りした十郎兵衛は、妻・お弓と共に住んでいた。お弓が、一人で留守番をしていると、巡礼の娘が通り掛かる。話しているうちに、娘・おつるとわかる。両親を探し歩いて、ここまで来たのだった。しかし、ここで名乗ってしまうとおつるに災いが降りかかるかもしれないと思い、一旦は知らぬふりをして泣く泣くわかれるお弓だった。しかし、ここで別れては今生の別れとなってしまうと思直したお弓は、おつるの後を追う。

パルタル「ポンポンソリ」「ジャンタリョン」「ユックチャベギ」

パルタルでは、様々な歌が織り込まれながら、人と人形との軽妙なやり取りによって話が進む。中では、下記のような歌が歌われる。

ポンポンソリーおならや風呂の音などを真似しながら庶民の生活像を描くコミカルな曲。ジャンタリョンー韓国の様々な市場の個性を滑稽的に表現する。ユックチャベギー全羅道地方を中心として歌われる韓国の代表的な民謡。叙情的で、抑揚が強く味がある歌い方で、男女の恋物語が繰り広げられる。

糸操り「嘉礼献瑞」

「嘉礼献瑞」は儀式性の高い演目である。東西南北を守る神将が「戯神」（芝居ギルドの神）である相公爺（田都元帥）を迎える。田都元帥は音楽に通じ、唐の宮廷楽師となったとされる。処女懐胎により生まれ、蟹の泡で育ったなど様々な神話的伝承が残されている。泉州では最初に田都元帥が現れ、舞台を清め、様々な神を招くのが伝統的なスタイルで、人々に平安と吉祥をもたらすと信じられている。

中国では「戯神」は複数おり、田都元帥を戯神とする劇種は福建省、浙江省、台湾などにもある。

糸操り「鬧元宵」

中国では、旧暦1月15日の小正月は元宵節である。漢代に乱を平定したこの日、皇帝が民衆とともに祝ったのを端とする。元宵節にはランタンを飾り、邪気を払い吉祥を願ったため、「燈節」とも言われる。「海のシルクロード」の起点の町で、東西の人と文化が交わる国際都市として知られた泉州では、華やかな雰囲気であふれた街に世界各地から来た商人や旅行者が地元の人々とともに繰り出し、歌ったり踊ったりして、共に元宵節を過ごす。人種も身分をも超え、夜遅くまで喜びを分かち合う様子が繰り広げられる。

この資料に関するお問い合わせ先

横浜にぎわい座／^{かいとみほ} 堀内美穂

TEL : 045-231-2525

FAX : 045-231-4545

E-mail : mi.kaito@yaf.or.jp